



6 **西 渓 公 園**

多久家の家老屋敷跡を、多久出身の炭鉱王 「篙取伊好」が購入し、大正9年から13年にかけて整備した山水公園です。園内の葉鶯亭や図書館(現存するのは書庫部分のみ)とともに当時の多久村に寄付しました。春は桜、秋は紅葉の名所で、多くの市民でにぎわいます。



「寒鶯待春」…「冬の間、鶯は春に備えて一生 懸命笹鳴きをし、春に美しい声を出す。多久 の村人も人物として世に出るため、この公会 堂で学んで欲しい」という高取氏の思いが込 められた建物。会議や学習のほか休憩所等に も利用できます。

(電話予約 ☎0952-75-4827 都市計画課)



8 先覚者資料館

D 歴史民俗資料館

3つの資料館が隣接しており、多久の歴史 や人物、昔の生活について知ることができま す。入場料は無料です。



多久7代領主、茂堯の娘・林姫を祀った神社です。家臣・相浦善左衛門との恋愛にまつわる悲話があり、今では、安産祈願の神様として県内外から多くの人が訪れます。

(林姫の遺骨を納めた一字一石経一括資料は 市の重要文化財)



❷ 專 称 **氧** (☎0952-75-2440

807年に創建された浄土宗のお寺です。境内には市の重要文化財指定の少弐政資、資元父子の墓や樹齢600年の大つつじ(市の天然記念物)のほか、少弐政資ゆかりの核割れ梅などがあります。毎年7月13日には筑紫箏の創始者「諸田賢順を偲ぶ会」があります。



た く せい びょき **分 空 廟** (国の史跡及び重要文化財)



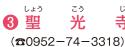
「敬は一心の主宰、万事の根本にして、万世聖楽の基本たり」。多久4代領主多久茂文は、教育を振興し、敬の心を育むため、1708年に多久聖廟を建てました。その思いが「文廟記」に記されています。また、茂文の多久を四霊(麒麟・鳳凰・龍・亀)の住む理想郷にしたいという思いが、聖廟の彫刻や絵などに表れています。聖廟内には孔子や顔子、曽子、子思子、孟子の像が安置されており、年2回(4月18日10月第4日曜日)孔子様と四配を祀る伝統行事「釈菜」が行われています。

(☎0952-75-5112 孔子の里)





多久茂文が、多久を治めるためには教育が必要であるとして、諸藩にさきがけ開いた学問所(1699年)。漢学や和学、武道などを学ぶ場で、学ぶ意欲があれば武士に限らず学ぶことができました。幕末から明治にかけて日本や郷土のために尽くした人物を数多く輩出しました。現在の東原庠舎では、各種研修施設として日帰り又は宿泊利用ができます。





1570年、龍造寺長信が梶峰城入城に際し、 鬼門の位置に建てた神仏混こうの寺院。東原 庠舎の初代と2代目の教授である河浪自安・ 質斎父子の墓や世界最古の花といわれる二千 年ハスの池などがあります。

4 多久八幡神社 (☎0952-75-3015)



1193年、多久太郎宗直が建てた神社で、建築様式や彫刻などは桃山期の特徴があり、神殿が県の重要文化財に指定されています。境内には三本杉の巨木があります(市の天然記念物)。

多久神社



1844年、多久11代領主多久茂族が先祖を祭祀するために建てた神社です。

拝殿には「松浦捕鯨図」の絵馬が、境内に は中林梧竹筆の多久茂族碑の碑文や草場船山 の詩を彫った手洗い盤などがあります。